

## 自由と責任

今日は「自由」ということがテーマです。「自由」ってよく聞く言葉ですが、これはいったい何でしょうか？ネットで調べますと、「他からの強制・拘束・支配などを受けず、自らの意思や本性に従っていることをいう」そうです。つまり誰かから「これはこうしないとイケないよ」、「こうでないとイケないよ」、「これはだめだよ」、「あれはだめだよ」と決められて、無理やりそれに従うことを要求されるということがない、自分がどうするか、どうあるかということ自分で決められる状態ということでしょうか。

こうした自由があるのは、当たり前なことではありません。世界を見渡せば、自由のない国はたくさんあります。海外のドラマを見ただけで逮捕されてしまうとか、デモと言って、「これはおかしいだろ」と抗議する集会に参加しただけで逮捕されてしまうとか、自由にものが言えない、自由に行動できない、自由に考えることができない、そんな現実がたくさん横たわっています。

この日本でも昔は自由がありませんでした。国の在り方に「ノー」と言えず、そういう人は逮捕されたりしたんですね。戦後、そうした反省から憲法で色々な自由が保障されましたが、今の日本でもはたしてどれだけ自由があるか、疑わしいところがあります。それだけではありません。今の日本の社会では、自由をやりたい放題と勘違いしているような、そんな困ったケースもあちこちで見受けられるような、そんな気がするのは、自由って何なんだろう？今日はこのことを皆で一緒に考えていきたいと願います。

さて、そんな今日は聖書の中からガラテヤの信徒への手紙5：13～14をお読みいただきました。パウロさんがキリスト者の自由についてお話しした所です。実は当時、パウロさんがこの手紙を書いたガラテヤの教会では、「キリスト者といえども律法という神様の掟を守らないと救われないよ」と主張する人々がいたのです。でも、パウ

ロさんの考えは違っていました。「私たちは律法という神様の掟を守ろうとしても完全には守ることのできない罪人だが、そんな私たちのためにイエス様は十字架ですべての人の罪を贖ってくださったんだ。私たちは罪を持ったそのまま、その恵みによって救われるんだ。だから、もう私たちは律法から自由なんだよ。」そう考えたんですね。だから律法を守らなきゃ、でもこれを守れない、あれを守れないときゅうきゅうして苦しむ生き方をするのではなく、イエス様の十字架の贖いを通して私たちをそのまま救ってくださる神様のその恵みに自らを委ねて自由に生きていく生き方を説いたのです。

ただパウロさんがこのようにして自由を教えると、必ず誤解する人が出てくるんですね。「ああ、もう自分たちは神様の掟から自由なんだ。罪を持ったそのまま救われるんだ。ということは、もうやりたい放題して良いってことだよな。」そう考えて、罪に開き直ってやりたい放題する人が出て来たんです。そんな人たちにパウロさんは言います。「たしかにあなたたちは自由を得るために神様によって召しだされたんだけど、ただその自由を、罪を犯すために用いるのではなく、愛によって互いに仕え合いなさい」と。自由とやりたい放題は違う。自由には責任が伴う。せっかく自由が与えられたのだから、私たちはその神様の恵みに感謝してその自由を愛のために用いていかなければならないのだ。そう訴えたんですね。

パウロさんのこの教えは、自由について考える時に、今の私たちにとってもとても大切なものです。ここで今の私たちの社会を振り返ってみれば、そこには自由をやりたい放題と勘違いする人のなんと多いことでしょうか。みんなはヘイトって分かるかな？ある特定の人たちに激しい憎悪を抱いて、「死ね」とか「日本から出て行け」とかいったみたいに非常に激しい攻撃の言葉、また侮辱的な言葉、差別的な言葉を投げつける行為を言います。言葉を投げつけるだけではなくて、時にはそれが傷害事件や殺人事件にまで発展してしまうことがあります。私たちの社会ではそうしたヘイトが溢れているんだけど、そういうヘイトをする人たちはみんな、自分たちの行為を正当化するために必ず「言論の自由だ」、「思想の自由だ」と言うんですね。

でも、それは自由では決してありません。自由には責任が伴います。人を傷つけて良い自由などないのです。いくら自由を語っても、愛を行う責任を放棄したならば、それはもう自由ではなくやりたい放題です。

私たち、自由とやりたい放題の区別をきちんとつけましょう。私たちキリスト者は何のものにも縛られない自由な存在ですが、その自由を愛のため、神様の御心のために用いていくのです。神様の前に責任を持ってこそ、私たちは本当に与えられた自由を謳歌することができる。そのことをいつも忘れずに過ごしていきたいと願います。

祈りましょう。 ——以下、祈祷——